

自治体名	神奈川県
------	------

女性の健康支援対策の概要

生涯を通じた健康づくりを実践するため、疾病によっては、女性と男性で罹りやすさや病状の進行速度が異なるといった性差を考慮することが重要となっている。

これまで、本県では、保健所を中心に思春期から更年期等に至る女性を対象に、その健康状態に応じ的確に自己管理が行うことができるよう健康教育を実施し、また、気軽に相談することのできる体制を整え、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図るよう事業を実施してきた。今後の課題として、女性特有のがん検診の予防や女性の禁煙に関する啓発等が重要である。

本県では、女性が、ライフステージに応じた健康づくりを実践できるよう支援するモデル事業を実施し、その効果を実証及び検証することを通じて、検診受診率の向上を含めた女性の健康づくりを推進するための具体的かつ効果的な対策を検討する。

自治体の特徴

神奈川県は、首都圏の一角に位置し、日本経済をリードしてきた活力ある地域であるとともに、山あり、川あり、海ありと豊かな自然にも恵まれた地域で、都市化・工業化が進んだ東部、緑豊かな山なみに抱かれた西部、相模川を中心とした中部、美しい海岸線が連なる湘南や三浦半島など、大変多様性に富んだ土地柄である。

人口構成・(H21.1.1 現在)

	総数	男	女
人	8,965,352	4,520,451	4,444,901
割合(%)	100	50.4	49.6

15歳未満	1,198,718	613,222	585,496
15～64歳	6,007,853	3,108,402	2,899,451
65歳以上	1,002,092	486,147	515,945
75歳以上	539,903	235,289	304,614
85歳以上	216,786	77,391	139,395

女性に関する健康課題

本県の健康増進計画である「かながわ健康プラン21」では、高齢になっても生き生きとくらすために、病気の早期発見や治療にとどまることなく、日常生活習慣を改善して病気の発症を予防する「一次予防」を重視している。一方で、平成15年度に実施した県民健康栄養調査では、本県の女性の、60歳代を除くすべての年代でやせの割合が全国平均より高いという結果が出ており、将来生活習慣病につながる懸念される女性が多いなど、性差に応じた施策の必要性がプランの中で示唆されている。

また、本県のがん対策推進計画である「がんへの挑戦・10か年戦略」には乳がん検診の充実強化が位置づけられ、加えて、本県の子宮頸がんの罹患率が急激に増加している。しかし、女性特有のがん検診の受診率は、全国下位を位置し、がん検診の受診率向上に向けた新たな取組みの必要性がある。

事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	2,787
(2) 中高年期における健康支援事業	5,173
(3) 女性のがん支援事業	3,414
計	11,374

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	子育て期女性の健康課代への対策～メンタルヘルス対策を中心に～
分野	<input type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input checked="" type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	606(千円)

事業目的

核家族化が進み、育児知識の体験的習得の機会の少ない中、出産して初めて育児に関わる母親が多くなり、子育て期の女性のストレス度は高い。そこでその実態を調査するとともに、育児ストレスの高い女性への対策として、子育て期メンタルハイリスク女性の訪問心理相談を試行的に実施する。

事業対象

子育て期女性

事業実施体制・展開

事業方法・実施期間

- ① 子育て期女性の実態調査(意識調査、ストレス度)
市母子保健事業に來所した母親に対してアンケート調査を実施(平成21年9月から11月)
- ② 子育て期メンタルハイリスク女性の訪問心理相談の実施(平成21年8月から平成22年3月) 11回
女性のためのこころの健康相談や未熟児・慢性疾患児家庭訪問実施者から対象者を選定
臨床心理士と保健師による訪問による心理相談を実施
- ③ 検討会議開催(平成21年8月から22年2月) 5回
アンケート作成からアンケート実施にむけて関係機関との調整、分析について学識経験者を交え打ち合わせ
- ④ 研修会開催 平成22年3月 1回
「子育て期の女性に対する育児支援～メンタルヘルスを中心に～」
実態調査結果と訪問による心理相談の効果について、管内母子保健事業担当者に対して実施

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 子育て期女性の実態調査 配布数223 回収数217 回収率97.3%
○子どもに関わるストレスで高いのは「元気づいで私が疲れる」4割、「気になることがある」「私のこどもはいつもつきまとって離れない」は約2割。
○親自身に関わるストレスでは「やりたいことがほとんどできない」が3割。
- ② 子育て期メンタルハイリスク女性の訪問心理相談の実施 11回 22名
- ③ 検討会議
- ④ 研修会開催 1回 3月5日

事業の工夫点

- ・従来から大学と母子事業のなかで協働研究を実施してきた。今回の事業展開にあたっては調査を中心に大学と協働してアンケート作成や調査結果分析を行い共同できたことが、工夫点のひとつだった。
- ・子育て期メンタルハイリスク女性の訪問心理相談では、既存の事業では支援の方策がなく、心理相談に来所できないケースに支援の手を伸ばす為に支援選定基準を作成した。

事業の効果についての評価・考察

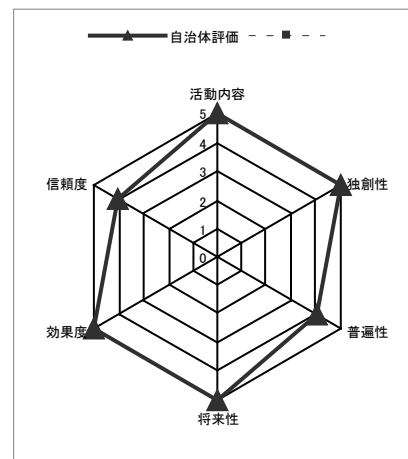
- ①子育て期女性の実態調査から、現代の子育て期の女性における育児ストレスが高い項目や、ストレス度の合計値の高い集団の特性が明らかになった。
- ②子育て期メンタルハイリスク女性の訪問心理相談から、ストレスも高く、マルトリートメントのリスクが疑がわれ、相談の場に来所できないケースに対して、訪問による臨床心理士の心理相談を実施したところ、以下のような有効性が確認された。
 - ・臨床心理士の訪問は、ケースの心理相談への参加意欲にかかわらず、問題状況（潜在的なニーズ）に応じて支援ができる。
 - ・保健師、臨床心理士の連携した訪問型心理相談を行うことにより、児童虐待を早期に予防できる可能性は高い。
 - ・臨床心理士にとっても生活の場を見てその実態を踏まえて相談対応ができた。
 - ・保健師はこどもの確認をしつつ、臨床心理士の見立てと方針をもとに支援策を検討し必要時に他機関と連携体制を保つなど、相互の専門性を高めあえる有効性と役割分担が確認された。

今後の課題

子育て期の女性の心理相談の場としては、既存の来所相談が（養育相談や女性の心の健康相談）が利用できるが、今後はそのなかで来所が難しいケースに対して、訪問を取り入れた心理相談を展開することの可能性が示唆された。今後は、家庭訪問という形態をとることで、必要対象をもらさず支援が行き届き、また実施スタッフの連携による支援ができるので、引き続き訪問心理相談を提供できる体制が求められる。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	5	従来事業の組み立てなおし、発想の転換で比較的容易に実施ができた。
②独創性	5	現在の社会的な課題に対し、今までにない活動形態の可能性を示した。
③普遍性	4	普遍的に実施できるかは、他地区での検証やコスト計算が必要。
④将来性	5	臨床心理士にとって新しい分野。保健師のスーパーバイズ機能を果たせる可能性も広がる。
⑤効果度	5	被相談者の満足度も高く、期待する効果が得られた。保健師のスキルアップなど予想以上の波及効果も生じた。
⑥信頼度	4	ケース数を増やし、リスクアセスメントの手法など再現性を高め、また、効率性を高めた運営形態を探る必要あり



様式2-1の資料

事業名	関連目標	評価の視点									
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価				アウトカム評価	
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準
子育て期女性の健康課題への対策～メンタルヘルス対策～	(1)子育て期女性の健康課題実態を把握する	実態把握調査を計画できた ①子育て期女性の実態調査	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	子育て期女性の実態調査を実施するために関係機関を交えた検討会議を実施した	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	検討会議の実施	5回	5回	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満	育児相談等参加者のストレス度が把握できた	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満
				子育て期女性の実態調査を実施するために適切なアンケート調査表を作った	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	育児ストレス度を配慮したアンケート用紙を作成した			③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				市母子事業でアンケートが実施できるように依頼した	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	アンケート依頼機関・事業	4機関 4事業	4機関 3事業	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満	育児相談等参加者の情緒的支援NW認知度が把握できた	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満
				当所事業でアンケートが実施できるよう関係者と調整した	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	アンケート依頼事業	1事業	1事業	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				市母子事業でアンケートが実施できた	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	集計に必要なアンケート数が確保された	200部	172部	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満	育児のストレスの基準が把握できた	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満
				当所事業でアンケートが実施できた	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	集計に必要なアンケート数が確保された	50部	45部	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				調査解析について大学に協力依頼できた	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	大学からのデータ分析結果	クロス集計までの結果	単純集計結果	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		

事業名	関連目標	評価の視点											
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価				アウトカム評価			
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準		
子育て期女性の健康課題への対策～メンタルヘルス対策～	(2)子育て期女性のメンタルヘルス対策を試行する	臨床心理士による訪問心理相談を設定した	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	実施体制の整備 訪問心理相談実施にむけて所内母子担当者間で意識の共有ができた	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	臨床心理士の確保ができた	1名	1名	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満	対象者の満足度	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				実施する臨床心理士の確保	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	訪問心理相談対象者の選定基準が作成できた		母子担当者・臨床心理士との打	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	対象者への実施効果	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				訪問心理相談対象者の選定基準の作成	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	メンタルハイリスク女性の訪問心理相談の実施	11回	11回	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満	心理士同行訪問の有効性の評価	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				メンタルハイリスク女性の訪問心理相談の実施	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	検討会議が実施できた	5回	5回	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	心理士の相談の効果を評価	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
				事業評価の検証する場を設けた	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	訪問心理相談の実施状況・利用者の反応等についてまとめ評価する		検討会議で実施した	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった				
				管内母子保健事業従事者を対象に研修会を実施し結果を共有する	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	事業実施状況を調査協力機関と共有する	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	女性の健康支援事業研修会を開催	1回	1回	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	地域関係機関から事業の理解が得られる	③. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満
				事業実施状況をもとに今後の事業実施について評価	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった	研修会の参加者の反応や実施機関からの意見をまとめ評価した		母子担当者・助言者と検討した	③.できた 2.ややできた 1.あまりできなかった				

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	思春期から30歳代における健康支援事業（10歳代・20歳～39歳）
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談
事業費（千円）	1,890千円（再委託）

事業目的

思春期から30歳代女性向けの総合的な健康教室を行い、ライフステージに応じた健康法の普及啓発及びがん検診受診率向上を図るための啓発活動を行う。

事業対象

高校生（10歳代）及び子育てサークル参加の母親（20歳～39歳）

事業実施体制・展開

【10歳代】

- ① 県教育委員会へ本事業への協力高校の紹介を依頼した。参加者の募集は高校側で実施。2日1コース。
- ② 女子高校生の健康問題のひとつである「やせ」に気付くことができるようセミナーを開催（1日目）し、気付いた健康問題に自ら取り組む体験（1日目より約1ヶ月）を通し、主体的に健康習慣を身につける方法を学び、自分は何の様な女性になりたいかをイメージする（2日目）ことにより、将来を見据えた健康課題に取り組む機会とする。また、将来の積極的な健康づくりとして、がん検診受診の啓発活動を行う。
- ③ セミナー講師は健康教育等の専門家へ依頼。

【20～39歳】

- ① 横浜市、川崎市で活動する複数の子育てサークルへセミナー開催を告知し、参加者を募集。2日1コース。
- ② 家族の健康に対する関心が優先しがちな子育て期の女性を対象に、健康生活実践プランの作成（1日目）、主体的な健康づくりの実践（1日目より約1ヶ月）、健康度測定による健康状態と自らの健康課題の把握（1日目・2日目）、さらには将来に向け、自分さがしを目的とした総合的な教室（2日目）を行い、健康への意識を高め、がん検診受診率向上を図る。
- ③ セミナー講師は健康教育等の専門家へ依頼。

事業目標・評価項目 及び その結果

【10歳代】

- ① 参加者の満足度 「とても満足・大体満足」80%以上
- ② 参加者からのクレーム なし
- ③ 参加者の健康（食事）に対する意識の変化 50%以上
- ④ 参加者の健康（運動）に対する意識の変化 50%未満
- ⑤ 参加者数 目標60人⇒参加者67人（両日参加者）

【20～39歳】

- ① 参加者の満足度 「とても満足・大体満足」80%以上
- ② 参加者からのクレーム 1件（進行不手際指摘）
- ③ 参加者の健康（食事）に対する意識の変化 50%以上
- ④ 参加者の健康（運動）に対する意識の変化 50%未満
- ⑤ 参加者数 目標60人⇒参加者16人（両日参加者）

※事業実施時期に新型インフルエンザ流行が重なり、参加応募はあったが、当日は多数が欠席することとなった。

事業の工夫点

- 【10 歳代】 事前に高校側教員と打合せをもち、健康問題の現状と課題について意見交換を行った。また、がん検診の重要性を講義し、母親への検診受診の勧奨及び自身が該当年齢になった際の検診受診の啓発を行った。
- 【20～39 歳】 事前にサークル代表と打合せをもち、健康問題の現状と課題について意見交換を行った。育児ボランティアグループに協力を依頼し、教室会場に保育スペースを確保した。

事業の効果についての評価・考察

【10 歳代】

- ① BMI において「やせ」に分類される参加者は少なく、標準が約 9 割であった。その中で約 8 割の参加者が「やせたい」と回答している。自身が標準体重範囲内であることを認識させることは有効であったが、セミナー終了後においても「やせたい」と回答する者が多く、意識変容を促す事業展開が必要。
- ② 参加者に運動部所属者が多く、日頃から運動をしていることから、「参加者の健康（運動）に対する意識の変化」が 50%未満と低い結果となった。
- ③ 2 日 1 コースのセミナーであるが、このセミナー後のフォローを学校保健の中で継続していただければ、事業効果の継続、波及効果が期待できる。

【20～39 歳】

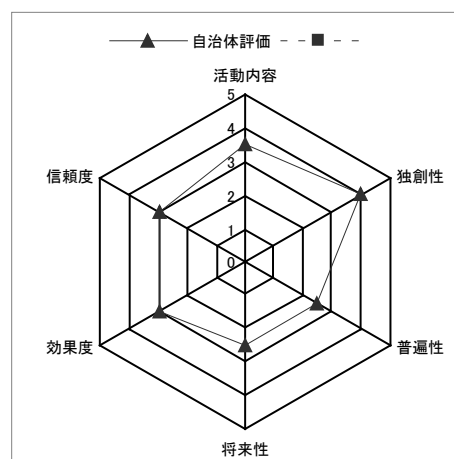
- ① 児が中心の日常生活において、母親自身の時間を持つことが難しいため、「参加者の健康（運動）に対する意識の変化」は 50%未満と低い結果となった。
- ② 参加者が抱える子育てに関するストレスを分類し、これらを解消するためのテーマ設定等によるセミナーも有効と考えられる。
- ③ 家族の健康に対する関心が優先しがちな子育て期の女性を対象とした事業では、家族の食事、運動等を見直すことにより、その要となる子育て期の女性自身が自らの健康も見直せる事業構成が必要である。

今後の課題

- 【10 歳代】 高校側教員との事前打合せのほか、対象となる高校生にもヒアリングを行い、参加対象者から現状と課題を聴取し、より身近な事業テーマを設定する必要がある。
- 【20～39 歳】 育児ストレスがあることは、アンケートにより予測したとおりの結果となった。ストレス解消のためのテーマ設定、家族の健康とともに自らの健康も見直せる事業構成等が必要である。また、児を伴っての参加であるため、風邪等の流行が懸念される時期の開催は避けた方がよい。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.5	複数回の事前調整により対象者に則したテーマを設定。個人を対象としたきめ細かな事業を展開。
②独創性	4.0	対象者に応じ独自の「健康プランノート」を配布。目標設定、達成を記録し、参加者の意識付けに活用。
③普遍性	2.5	対象グループが持つ現状と課題をテーマにセミナーを設定。
④将来性	2.5	事業後も参加者自身が「健康づくりの実践」を継続する意識付けやフォローが必要。
⑤効果度	3.0	生活の見直しのきっかけ作りとしては有用であったが、1 か月の実践では顕著な変化は見られなかった。
⑥信頼度	3.0	10 歳代は、運動部所属者が多く「一般高校生」として捉えられる結果となっていない。



様式2-2の資料

事業名	関連目標	評価の視点									
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価				アウトカム評価	
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準
健康づくりに 関する情報の 普及啓発	(1)女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるよう支援する	10歳代の女性とした対象設定ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	想定した健康課題に対し、対象集団へのニーズの聞き取りを行い、各集団に応じた健康支援策を検討した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	想定した健康課題に対し、対象集団へのニーズの聞き取りを行った回数	2回	1回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の満足度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満
		対象集団に対する参加者募集方法が設定できた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康課題(運動、栄養、休養)の解決に向けた情報提供を行うための講義および資料を作成した(用意した)	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康課題(運動、栄養、休養)の解決に向けた情報提供を行うための資料の作成数	60部	69部	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者からのクレーム件数	③.なし 2. 1~4件 1. 5件以上
	地域との連携を図りながら事業実施体制ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者自ら主体的に目標設定・達成できるための健康プランノートを作成した(用意した)	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者自ら主体的に目標設定・達成できるための健康プランノートの作成数	60部	69部	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の健康に対する意識変化(食事)	3. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	
			自らの健康状態を適切に把握し健康管理が出来る健康測定の内容を検討した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	測定(骨密度・加速度派波・体組成)を実施した回数	4回	4回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の健康に対する意識変化(運動)	3. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	
			がん予防の重要性等について普及啓発のためのリーフレットおよび乳房自己触診モデルを作成した(用意した)	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	がん予防の重要性等についての普及啓発のためのリーフレットおよび乳房自己触診モデルを使用し講義した回数	2回	1回	3. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満			
			セミナーに関する相談・質問等を受けるための専用メールアドレスを開設した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーに関する相談・質問等を受けるための専用メールアドレスの利用回数	6回	0回	3. 80%以上 ①.50%未満			
			セミナーを企画した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーの企画会議回数	2回	1回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満			
			セミナー参加の募集・呼びかけを行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナー参加の応募者数(1日でも参加した人数)	60人	69人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満			
			セミナーを実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーの実施回数 全日参加人数(対象年齢該当群) 同 (非該当群)	2回 60人 67人 0人	2回 67人 0人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満			
			セミナー参加者の意見の聴取、アンケート調査を行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナー参加者の意見の聴取 アンケート調査回収数(該当) 同 (非該当)	2回 60人 60人 0人	2回 67人 0人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満			
		事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見を検討し、評価した	3. できた ②. ややできた 1. あまりできなかった	事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見の検討評価会回数 参加人数	2回 4人	0回 0人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①.50%未満				
		評価結果をもとに、実施体制・内容の見直しを行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	実施体制・内容の見直し内容	-	記述	3. よかった ②. やや良かった 1. あまり良くなかった				

事業名	関連目標	評価の視点									
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価				アウトカム評価	
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準
健康づくりに 関する情報の 普及啓発	(1)女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるよう支援する	20歳~39歳の女性とした対象設定ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	想定した健康課題を対象集団と事前に共有し、健康支援策を検討した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	想定した健康課題に対し、対象集団との共有を行った回数	2回	2回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の満足度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満
		対象集団に対する参加者募集方法が設定できた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康課題(運動、栄養、休養)の解決に向けた情報提供を行うための講義および資料を作成した(用意した)	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康課題(運動、栄養、休養)の解決に向けた情報提供を行うための資料の作成数	60部	35部	3. 80%以上 ②.50%以上 1. 50%未満	参加者からのクレーム件数	③.なし ②. 1~4件 1. 5件以上
	地域との連携を図りながら事業実施体制ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者自ら主体的に目標設定・達成できるための健康プランノートを作成した(用意した)	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者自ら主体的に目標設定・達成できるための健康プランノートの作成数	60部	35部	③.80%以上 ②.50%以上 1.50%未満	参加者の健康に対する意識変化(食事)	3. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満	
	教室を行うにあたって保育実施体制ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	自らの健康状態を適切に把握し健康管理が出来る健康測定の内容を検討した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	測定(骨密度・血管年齢・体組成)を実施した回数	4回	4回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の健康に対する意識変化(運動)	3. 80%以上 2. 50%以上 ①.50%未満	
			がん予防の重要性等について普及啓発のためのリーフレットおよび乳房自己触診モデルを作成した(用意した)	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	がん予防の重要性等についての普及啓発のためのリーフレットおよび乳房自己触診モデルを使用し講義した回数	2回	2回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満			
			セミナーに関する相談・質問等を受けるための専用メールアドレスを開設した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーに関する相談・質問等を受けるための専用メールアドレスの利用回数	6回	0回	3. 80%以上 2. 50%以上 ①.50%未満			
			セミナーを企画した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーの企画会議回数	2回	6回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満			
			セミナー参加の募集・呼びかけを行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナー参加の応募者数(1日でも参加した人数)	60人	35人	3. 80%以上 ②.50%以上 1.50%未満			
			セミナーを実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーの実施回数 全日参加人数(対象年齢該当群) 同 (非該当群)	2回 60人 14人 2人	2回 67人 0人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①.50%未満			
			セミナー参加者の意見の聴取、アンケート調査を行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナー参加者の意見の聴取 アンケート調査回収数(該当) 同 (非該当)	2回 60人 60人 0人	2回 14人 2人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①.50%未満			
		事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見を検討し、評価した	3. できた ②. ややできた 1. あまりできなかった	事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見の検討評価会回数、参加人数	2回 4人	0回 0人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①.50%未満				
		評価結果をもとに、実施体制・内容の見直しを行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	実施体制・内容の見直し内容	-	記述	3. よかった ②. やや良かった 1. あまり良くなかった				

(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	「中高年期の女性に対する食と健康の情報提供」 一企業で働く女性への健康づくりについての取り組み
分野	■知識の提供 ■健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	1,955（千円）

事業目的

企業で働く女性を対象に、参加型健康教室（健康 UP イベント）を実施し、加齢に関する基本知識や、生活習慣等、特に適切な栄養摂取に関する理解を深められるよう情報提供を行う。そのことにより、女性が更年期等に関する正しい知識を身に付け、自らの健康に目を向けることで、生涯を通じた主体的な健康づくりが実践できるように支援する。

事業対象

企業で働く女性

事業実施体制・展開

- ① 大和保健福祉事務所で実施した「社員食堂を活用した健康づくり研修会」や、特定給食等指導事業を通じて 3 企業を募集した。
- ② 参加型健康教室（健康 UP イベント）の運営にあたり、地域関係団体（地域栄養士会及び、食生活改善推進団体）の協力を得た。女性の健康サポーターとして活動できるよう、事前に更年期等についての知識及び実践技術を身に付けるための「サポーター研修」を実施した。
- ③ 「健康 UP イベント」の内容は、骨密度測定、体脂肪測定、肌水分測定、350g 野菜クイズ、1 日摂取目安食品の展示、Ca 強化食品の試食、女性の健康便利帳の配布、リーフレット配布、社員食堂メニュー集配布、栄養・健康相談、マンモグラフィー検診車の展示・見学、参加者にはアンケート調査を実施した。
- ④ 骨密度測定は、かながわ健康財団に、マンモグラフィー検診車の展示・見学は、予防医学協会に依頼し実施した。
- ⑤ 参加型健康教室（健康 UP イベント）が効果的に開催できるよう、「担当者会議」を開催し、本事業の実施目的等について確認した。健康 UP イベントを開催する企業、地域関係団体、保健福祉事務所担当者が更年期について正しく共通認識を持つことができるよう、メノポーズカウンセラーを講師に招き、学習会を実施した。事業終了後には結果報告会を行い、企業、地域関係団体と今後の取り組み等について話し合った。
- ⑥ 事業の企画・評価は、ヘルスプロモーション研究センターから助言を得た。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①「健康 UP イベント」参加者数 A社 35名 B社 128名 C社 27名
- ②「健康 UP イベント」参加者のアンケート結果
 - ・イベントの内容に満足したか とても満足した（49人/161人） 満足した（97人/161人）
 - ・自分にとって役立つ情報があつたか たくさんあつた（39人/161人） あつた（99人/161人）
 - ・家族や友人に伝えたい情報はあつたか あつた（87人/161人）
- ③サポーター研修の参加者数 更年期 104名 サプリメント 44名 体づくり 29名
- ④企画・準備における企業・地域団体との連携
 - ・企業との打合せ 3回、連絡（電話・メール・FAX） 39回
 - ・関係団体・関係機関との打合せ 10回、連絡 45回

事業の工夫点

参加型健康教室（健康 UP イベント）を企業に出向き開催できたことにより、働く女性が気軽に楽しみながら参加することができた。さらに、女性の健康サポーターがきめ細かく対応することにより、働く女性自身の健康問題への認識が深まった。

企業で実施している一般健診項目とは違う内容で実施したため、健康への関心が引き出せた。

事業の効果についての評価・考察

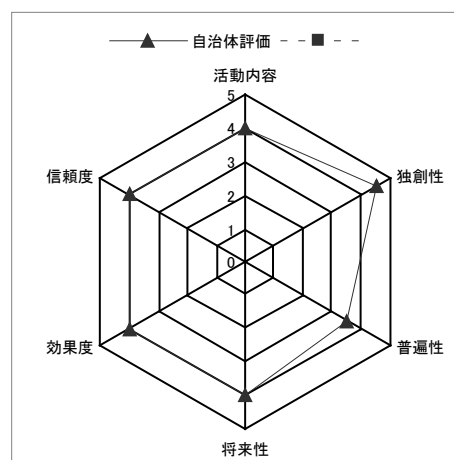
- ① 行政が実施する女性に係る事業は母子保健に関連するものが殆どである中で、本事業では、通常の事業対象として関わりの少ない働く女性を対象とし、更年期や生活習慣病に関する正しい知識の普及、食情報ははじめ、新しい情報の提供を、企業、地域関係団体と協働して実施することができた。
- ② 市のガン検診実施日程について、企業に対して直接市から情報提供が行われることとなり、がん検診受診の機会が増えることが期待される。
- ③ 各々違った活動団体が交流し情報を共有することで、団体間での活動自体の広がりや、団体が関わる住民への普及啓発の内容も広がることを期待できる。
- ④ 事業を継続することで、地域関係団体や企業との信頼関係が深まり、地域のネットワークが形成でき、女性一人ひとりが健康づくり支援を受けられる地域づくりにつながるができる事業であると考える。

今後の課題

- ・保健福祉事務所や地域関係団体の人材を活用し、今後も企業と協働した取り組みを継続していきたい。
- ・今回の事業取り組みは、管内 40 企業に機会を作り報告会を開催する予定。
- ・マンモグラフィ検診車については、展示・見学のみでなく、実際に健診を受けたいという希望が複数の女性から出されたことから、今後調整が必要であると考える。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.0	地域関係団体の協力を得たことで、団体が関わる住民への普及啓発につながると思う
②独創性	4.5	事業対象として関わりの少ない、働く女性を対象とすることができた
③普遍性	3.5	企業とは給食施設指導を通じて継続した関わりがあり、それを生かした取り組みのため
④将来性	4.0	報告会等の実施により、後に続く企業が見込まれる
⑤効果度	4.0	企業と連携することで、女性が自身について考える機会となった
⑥信頼度	4.0	3企業で実施ができたことによる



大和保健福祉事務所 女性の健康支援対策事業 プロセス評価指標

	番号	段階 評価項目	1	2	3	4	5	
企画	1	大和市・綾瀬市・大和保健福祉事務所・管内における女性に関する事業の実施状況について把握しているか。	把握していない	実施事業名のみを把握している	事業名・目的・内容までを把握している	事業が実施されている分野と、未実施の分野（これから事業を行う必要がある分野も含む）について把握している		
	2	管内の働いている女性の数を把握しているか	把握していない	給食施設のある企業の女性の従業員数を把握している	給食施設のある企業の女性の従業員数の割合について把握している	管内の企業すべての女性の従業員数について把握している	管内の企業すべての女性の従業員数の割合について把握している	
	3	イベントの目的にあった資料収集をどのように行ったか	所内からのみ収集した	1に加え、業者などに問い合わせで収集した				
	4	大和保健福祉事務所では、働きざかりの女性を対象にした事業に取り組んでいるか	働き盛り世代の事業に取り組んでいない	働き盛り世代の事業に取り組んでいるが、男性を対象とした（メタボ予防）の取り組みが中心である	働きざかりの女性を対象にした事業に取り組んでいる			
	5	女性の健康支援事業をすすめる上で、管内の事業状況をどの範囲で把握したか	所内担当者のみで、女性の事業状況を把握した	課内で、女性の事業状況を把握した	担当者が県の評価会議に出席し、県内の事業状況を把握した			
	6	女性の健康支援対策事業について、関係団体（会）への説明（協力依頼）はどのように行ったか	会長のみに説明した	会の役員に説明した	会の研修会の中で、全会員に説明した			
	7	女性の健康支援対策事業について、関係団体（会）へ協力を依頼する際に何を説明したか	当日の実施内容のみを伝えた	当日の実施内容と事業の目的についてのみ説明した	その事業を行う意義（上位目的）のほかに、管内の他の事業との関連などを説明した上で、当日実施する事業の目的や内容を説明した			
	8	女性の健康支援対策事業の企画はどのように行ったか	担当者のみで検討した	課内で検討した	本課の助言を得て検討した	企画助言者の助言を得て検討した		
実施	サポーター養成研修	1	サポーターの養成をどのように行ったか	サポーター個人が自分で勉強した	資料提供のみした	研修会を開催して学ぶ機会を提供した		
		2	サポーター養成研修の目的はどのように検討したか	担当者のみで検討した	課内で検討した	課内と関係団体で検討した		
		3	サポーター養成研修の内容はどのように検討したか	担当者のみで検討した	課内で検討した	課内と関係団体で検討した		
		4	研修の開催にあたり、参加者をどのように募集したか	代表に告知した	代表から役員へ告知した	役員から各委員へ告知した		

	番号	段階 評価項目	1	2	3	4	5	
実施	サポーター養成研修	1	研修会の運営をどのように行ったか	担当者のみで運営した	課全体で運営した	関係団体を協働で運営した		
		2	研修の目的をどのように設定したか	特に定めない	イベントでの自分の役割が分かることを目的とした	イベントの目的と合わせて自分の役割が分かることを目的とした		
	評価	1	サポーター養成研修の評価はどのように行ったか	評価をしていない	担当者のみで評価した	課で評価した	関係団体から意見や感想をきいて評価した	
		1	担当者会議の内容をどのように検討したか	担当者のみで検討した	課内で検討した	課内と会議出席者で検討した		
	担当者会議	2	担当者会議の開催目的をどのように検討したか	事業実施内容の伝達のみ	事業実施内容及び目的についての伝達のみ	事業を行う意義などについて基調講演を行い会議の中で学習し、事業実施内容及び目的について伝達した		
		3	担当者会議の出席依頼をどのように行ったか	参加者に直接依頼	参加者の上司に説明依頼			
		1	担当者会議の出席はどうか	担当者のみ出席	担当者が複数出席	担当者と上司が出席		
	評価	1	会議の開催はどのようにしたか	打ち合せのために開催した	企業の意見を聞き、目的の共有をはかるために開催した	2に加え、企業の担当者と共に、イベントの評価を行うために開催した		
		2	担当者会議の開催目的は理解されたか	事務局のみが理解する	事務局及び会議出席者のみが理解する	会議出席者が職場内（関係団体）の複数の担当者（関係者）に伝達し理解する	会議出席者が職場の上司（関係団体の役員）に説明し理解を得る	
	健康UPイベント	1	イベント開催にあたり、参加企業をどのように募集したか	担当者に直接依頼した	給食施設実地調査時にチラシを配布して募集した	イベントチラシを対象企業に郵送して募集した	試食研修会で、イベントの説明をして募集した	
		2	イベント開催にあたり、企業側の理解・協力をどのように得たか	企業側に詳しい説明をしなかった	企業側に個別にイベントの目的を説明した			
		3	イベント開催にあたり、企業との協働があったか	イベントは当所の担当者のみで開催	イベントは当所と企業で協働	イベントは当所と企業と関係団体で協働	イベントは当所と企業と関係団体と当事者（女性）で協働	イベントは当所と企業と関係団体と当事者（女性・男性）で協働
		4	イベント開催の目的を、企業はどのように理解しているか	女性の健康支援への取り組みに対する必要性を、担当者のみが理解する	女性の健康支援への取り組みに対する必要性を、現場の上司が理解する	女性の健康支援への取り組みに対する必要性を、企業全体として理解する		
		5	イベント開催について、関係団体（会）への説明（協力依頼）はどのように行ったか	会長のみに説明した	会の役員に説明した	研修会の中で、全会員に説明した		
6		イベント開催について、共催団体（予防医学協会・財団）への依頼はどのように行ったか	本庁任せであった	電話・メールで依頼した	出向いて協力の依頼のみ行った	イベント会場の下見後、出向いて協働の依頼を行った		
7		「女性のための健康便利帳」をどのように作成したか	収集した資料からの選別しただけ（サポーター研修講師からの提供資料を含む）	継続した自己管理ができる仕様とした				

	番号	段階 評価項目	1	2	3	4	5		
実施	健康UPイベント	実施	1 イベント開催について、関係団体(会)はどのように役割を担ったか	会長のみが役割を担った	役員の中で分担した	会員の中で役割分担した	役員が自分から協力を申し出た		
			2 イベント開催について、企業の担当者はどのように役割を担ったか	役割を担わなかった(会場提供のみ)	担当者がイベントの参加者となった	担当者がイベントに立ち会った	担当者が依頼した役割に応じてくれた	担当者が自主的に、イベントの役割を担った	
			3 イベント開催について、企画担当者以外も役割を担ったか	イベント開催について他部署から理解を得られた	他部署からの協力が得られた(場所・物品)	他部署からの協力が得られた(場所・物品・スタッフ)	他部署も主体的にイベントの役割を担った		
	評価	健康UPイベント	評価	1 イベントを通じて提供された情報の中に、参加者にとって必要な情報があつたか	(反応なし) 分からない人が多かった	あつた人がいなかった	あつた人が少なかった	あつた人が多かった	あつた人が非常に多かった
				2 イベントを通じて提供された情報の中に、参加者が友人にも伝えたい情報があつたか	(反応なし) 分からない人が多かった	あつた人がいなかった	あつた人が少なかった	あつた人が多かった	あつた人が非常に多かった
				3 参加者は、どのようなかたちでイベントに関わったか	見学のみで参加はしなかった	興味のあるもののみ参加した	時間の許す限り参加した		
				4 参加者にとって、イベント内容の満足度はどうであったか	(反応なし) 分からない	とても不満だった	やや不満だった	満足した	とても満足した
	評価	健康UPイベント	評価	1 女性の健康支援対策事業の評価はどのように行ったか	評価をしていない	担当者のみで評価した	課で評価した	参加者や参加企業の担当者などと一緒にした	課の評価会議で意見や感想をきいて評価した
				2 「事業の対象となる女性一人ひとりが、生活や仕事との関連をも含めた、総合的な視点に立つことを踏まえた健康づくり支援を受けられるようにする」という目標は達成できたか	あまりできなかった	ややできた	できた		
				3 事業の目的は達成したかについてだれが説明できるか	分からない	担当者のみ説明できる	課内で説明できる	関係団体や企業の担当者も説明できる	
4 他の事業への影響や広がりがあったか				何もない	事業報告会を開催したが、未参加企業や他の担当者から問い合わせや相談などはない	事業報告会を開催したが、未参加企業や他の担当者から問い合わせや相談などがいくつかあつた	事業報告会を開催したが、未参加企業や他の担当者から問い合わせや相談などがたくさんあつた		
5 イベント実施企業内でどのような影響や広がりがあったか				保健福祉事務所からの提案があれば、再びイベントを開催する予定でいる	担当者が従業員へのニーズ調査をして、現状把握をする	保健福祉事務所に助言を求め、自社の女性の健康支援対策について検討する	企業が主体的に女性の健康支援について企画する	立てた企画に沿って、主体的に実施する	
6 担当者が事業を担当しての感想はどうか				何ものなし	つらかつた	やや満足した	満足した		
7 関係団体が事業を担当して、協働した価値があると思ったか				価値はないと思った	価値があると思った	非常に価値があると思った			
8 企業が事業を担当して、協働した価値があると思ったか				価値はないと思った	価値があると思った	非常に価値があると思った			

(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	「中高年期（特に更年期とその前後に重点）における健康支援事業」 (40歳～59歳)
分野	■知識の提供 ■健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	1,507（千円） 再委託

事業目的

更年期の特徴である心身の変化が起こりやすい中高年期の女性を対象に、グループワークによる主体的な心身の健康づくり、健康度測定による健康状態と自らの健康課題の把握、さらには初老期に向け今後の人生を考えるきっかけづくりを目的とした総合的な教室を行い、健康への意識を高めるための普及啓発およびがん検診受診率向上を図るための啓発活動を行う。

事業対象

40～59歳 女性 体操教室のメンバー

事業実施体制・展開

【1日目】

- ・受講前調査（アンケート調査）
- ・健康度測定、結果アドバイス（血管年齢測定）
- ・「更年期における女性の心の変化と体の変化」
- ・グループワーク「これからどのような人生を過ごしたいですか」

【2日目】

- ・健康度測定、結果アドバイス（骨密度測定）
- ・「食選力を高めよう」
- ・グループワーク「これからの食生活の目標を立ててみましょう」

【3日目】

- ・健康度測定、結果アドバイス（体組成測定）
- ・「人生の第3期 もっとも実りある時期～自己実現に向けて～」
- ・グループワーク「これからの夢を叶えるマイプラン！」
- ・がん対策（予防、早期発見、健康学習）
乳がん自己触診モデル、がん検診普及啓発パンフレット配布
- ・受講後調査（アンケート調査）

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 参加者の満足度 「とても満足・大体満足」80%以上
- ② 参加者からのクレーム なし
- ③ 参加者の健康（食事）に対する意識の変化 50%未満
- ④ 参加者の健康（運動）に対する意識の変化 50%未満
- ⑤ 参加者数 目標60人⇒参加者64人（両日参加者）

事業の工夫点

- ・参加者の年齢幅が広く、更年期前後などで心身の健康状態が異なっていたため、更年期障害だけでなく講話内容の検討やグループワークを導入し、参加者それぞれが、自分自身の心身の健康について改めて考える機会となるように工夫した。

事業の効果についての評価・考察

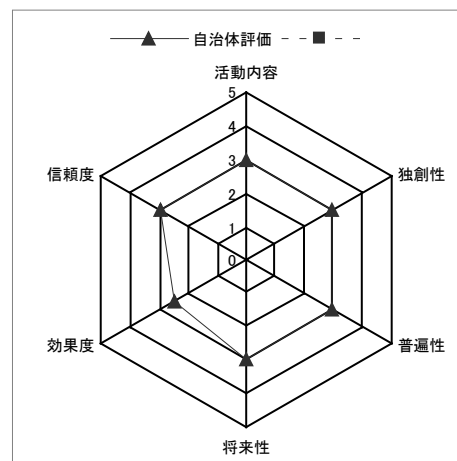
- ・参加者自ら主体的に目標設定・達成できるためのグループワークを行い、参加者の感想として「自分なりの健康に気をつけたい」「普段の生活習慣などを見直す機会となった」等、参加者の満足度 80%との回答があった。
- ・運動グループのメンバーのため食事や運動に関する意識の変化に大きな変化は見られなかった。
- ・乳がん、子宮がんなど女性特有のがんに罹りやすい年代であり、参加者のがん検診受診率が全体的に高かったことにより、がんへの興味や意識が高いなかでがん予防・早期発見の必要性を改めて周知することができた。

今後の課題

- ・アンケートにおいて約 80%の参加者がストレスを感じると回答し、初老期の女性の特徴としてうつ症状も起こりやすいため、今後の事業展開にあたっては、メンタルヘルス対策の必要性がある。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3	参加者自ら主体的に目標設定・達成できるためのグループワークを取り入れた。
②独創性	3	対象者に応じ独自の「健康プランノート」を配布。目標設定、達成を記録し、参加者の意識付けに活用。
③普遍性	3	中高年期の健康課題が明確になり、今後一般的な健康教育として展開できる。
④将来性	3	中高年期の女性が持つストレスや健康課題をテーマにセミナーを設定
⑤効果度	2.5	生活の見直しのきっかけ作りとしては有用であったが、1か月の実践では顕著な変化は見られなかった
⑥信頼度	3	参加者の意見や感想、意識変化の分析については現状に一致している。



様式3-2の資料

事業名	関連目標	評価の視点											
		ストラクチャ評価		プロセス評価				アウトプット評価				アウトカム評価	
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準		
健康づくりに 関する情報の 普及啓発	(1)女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるよう支援する	40-59歳の女性とした対象設定ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	想定した健康課題を対象集団と事前に共有し、健康支援策を検討した	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	想定した健康課題に対し、対象集団との共有を行った回数	2回	3回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の満足度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
		対象集団に対する参加者募集方法が設定できた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康課題(運動、栄養、休養)の解決に向けた情報提供を行うための講義および資料を作成した(用意した)	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	健康課題(運動、栄養、休養)の解決に向けた情報提供を行うための資料の作成数	60部	64部	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者からのクレーム件数	③.なし 2. 1~4件 1. 5件以上		
	地域との連携を図りながら事業実施体制ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者自ら主体的に目標設定・達成できるためのグループワークを検討した(用意した)	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	参加者が自ら主体的に目標設定・達成できるためのグループワークを実施した回数	6回	6回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の健康に対する意識変化(食事)	3. 80%以上 2. 50%以上 ①. 50%未満			
			自らの健康状態適切に把握し健康管理が出来る健康測定の内容を検討した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	測定(骨密度・血管年齢・体組成)を実施した回数	6回	6回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の健康に対する意識変化(運動)	3. 80%以上 2. 50%以上 ①. 50%未満			
			がん予防の重要性等について普及啓発のためのリーフレットおよび乳房自己触診モデルを作成した(用意した)	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	がん予防の重要性等についての普及啓発のためのリーフレットおよび乳房自己触診モデルを使用し講義した回数	2回	2回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満					
			セミナーに関する相談・質問等を受けるための専用メールアドレスを開設した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナーに関する相談・質問等を受けるための専用メールアドレスの利用回数	6回	0回	3. 80%以上 2. 50%以上 ①. 50%未満					
			セミナーを企画した	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	セミナーを企画会議回数	2回	1回	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満					
			セミナー参加の募集・呼びかけを行った	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	セミナー参加の応募者数(1日でも参加した人数)	60人	64人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満					
			セミナーを実施した	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	セミナーの実施回数 全日参加人数(対象年齢該当群) (非該当群)	2回 60人 0人	2回 25人 13人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①. 50%未満					
			セミナー参加者の意見の聴取、アンケート調査を行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	セミナー参加者の意見の聴取アンケート調査回収数(該当) (非該当)	2回 60人 0人	2回 25人 13人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①. 50%未満					
			事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見を検討し、評価した	3. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見を検討評価回数、参加人数	2回 2回	0回 4人	3. 80%以上 2. 50%以上 ①. 50%未満					
			評価結果をもとに、実施体制・内容の見直しを行った	③.できた 2. ややできなかった 1. あまりできなかった	実施体制・内容の見直し内容	-	記述	3. よかった ②. やや良かった 1. あまり良くなかった					

(3) 女性のがん支援事業

事業名	「ピンクリボンかながわ 2009 a t 日本大通」
分野	■啓発活動 ■健康教育 □健康相談
事業費（千円）	3,361（千円） （本県他事業で共通利用したリーフレット作成を含む）

事業目的

乳がん検診の普及啓発と受診促進の一層の進達を図るため、がん予防やがん検診についての普及啓発を実施、がん検診の受診率向上を目指し、若年者から中高年まで来場する大きなイベントの機会を捉えて普及啓発を行う。また、民間団体「ピンクリボンかながわ」との共催や、企業CSRによる協賛、横浜開港150周年記念イベント（以下「Y150」という。）の協力など、他団体と連携した取組みにより、より効果的な普及啓発事業を展開する。

事業対象

若年者から中高年までの県民（県外来訪者含む）

事業実施体制・展開

① マンモグラフィ検診車普及啓発活動（平成21年9月26日（土）・27日（日）13時～17時）

県庁本庁舎車寄せ前で、マンモグラフィ検診車とテント2張（県テント・「ピンクリボンかながわ」テント）を設営、「ピンクリボンかながわ」テントで乳房モデルの視触診体験を実施、マンモグラフィ検診車の見学を実施したのち、アンケート調査を実施、県テントにおいてアンケートの回収と引き換えに啓発リーフレットと検診受診案内、ノベルティグッズや普及啓発物品を配付した。普及啓発には協賛企業である東京海上日動社員ボランティア及び横浜ベイスターズ専属チアチーム「diana」も参加した。

また、同時開催していたY150音楽イベントのステージを借りて、「diana」のダンスパフォーマンスを行った。

② 県庁本庁舎のピンクリボンライトアップ（平成21年9月26日（土）・27日（日）17時30分～21時）

県庁本庁舎をピンクにライトアップ（ライトアップ費用は協賛企業負担）。イベント初日夜に点灯式を開催し、県庁本庁舎車寄せ前で、ライトアップ前に点灯式を開催。来賓あいさつの後、「diana」のカウントダウンの掛け声でライトアップ、庁舎がライトアップされた中で、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏及び乳がん体験者である元宝塚歌劇団 東地美佳氏から、がん検診受診勧奨のメッセージをいただいた。

③ 連携実施体制

本事業は、民間団体のピンクリボンかながわとの共催（県庁周辺で連動してピンクリボンイベントを展開）、東京海上日動火災保険株式会社・同あんしん生命保険株式会社の企業CSRの協力を得て実施した。また、同時開催のY150音楽イベントとステージスペースや音響施設の利用について協力・連携して実施した。

事業目標・評価項目 及び その結果

① 集客性の高いイベントとの同時開催による大勢の参加者への普及啓発

県庁周辺地区でのピンクリボンイベント、Y150最終日との同時開催設定により1,103人の参加が得られた。

② 参加者の満足度（アンケート回答者865人）94%：回答者 578人中、とても満足・大体満足 548人

③ 参加者のがん検診の意識変容（アンケート回答者865人）98%

：回答者 629人中、意識の変化あり（受診の重要性がわかった、受診しようと思うなど） 617人

④ ピンクリボンかながわとの共催によるマンモグラフィ検診車の見学体験、放射線技師による検診の説明実績

イベント参加者1,303人中、マンモグラフィ検診車見学者 1,103人

⑤ 企業CSRの協力によるイベント周知のチラシ・ポケットティッシュの作成・配付

市町村、保健福祉事務所、検診機関、生活共同組合等を通じたチラシの事前配布と、イベント当日の街頭での啓発ティッシュの配付 チラシ3,000部 ポケットティッシュ4,500個

事業の工夫点

マンモグラフィ検診車を配置し、見学できるようにすることで、参加者に検診手法を理解してもらうことができた。また、企業 CSR や民間団体との連携にあたり、決定内容をお互い確認、メモしあうことを工夫し、打合せ結果の共有に課題があった部分について改善された。企業協賛によるボランティアの延べ 80 人の参加や、日ごろより普及啓発の実績があるピンクリボンかながわとの共催により、効果的な普及啓発を行うことができた。

事業の効果についての評価・考察

企画評価部会において、効果的な事業展開であったか、また、どのような手法をとると、さらに今後の事業に活用できるかという視点で検討した。

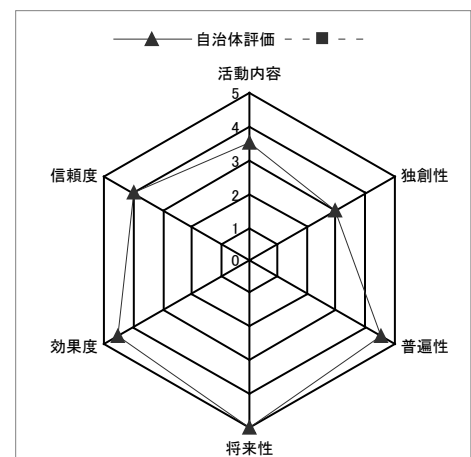
- ① 「ピンクリボンかながわ」では、後日民間団体としてこれまでの活動に関わった関係者を集めて報告会が開催され、行政関係者も含めて招かれた。その際には行政と一緒に実施した本件事業についての一定の評価が得られた。
- ② 行政が企業や民間団体と連携協力し、計画的に打合せを重ねて、それぞれの事業を実施できた。この連携協力がお互いの事業効果について相乗効果があった。また、関係者が事業後に集まることで、今後の取組みへの道筋も見えてきており、事業の実施手法として評価ができると考えている。
- ③ 企業や地域の中で、ネットワークを模索した点が効果的な事業展開として評価された。
- ④ イベントはそれをきっかけにして、その後の活動に結びつけることが重要である。検診予約が現場でできるなど、行動変容を誘導するような形での今後の事業展開を考えるとよりよいイベントになる。
- ⑤ 県全体として、受診率向上の効果が現れるように、県で全体のイベント実施をサポートしていくような形、例えばホームページを使った県内イベントの周知などの方法も今後検討できるのではないかと。

今後の課題

イベントの開催決定が6月下旬で、限られた期間に調整や準備を早急に進める必要があったために、業務量が集中した。一方で、業務量が多く、担当一人では処理が不可能であったため、作業一覧スケジュールを作成し、それを共有することで業務分担をしながらチームでの取組みを行うことができた。今後同様の事業を行うにあたっては、作業一覧スケジュールを活用することで計画的、効率的な事業展開が期待できる。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.5	集客性の高い開催条件を選び、多くの参加者が得られた。開催場所が観光地であることから地域性は低かった。
②独創性	3.0	ピンクリボン活動は各地で開催されており、新しい取組みではないが、民間団体と連携した実施体制は評価できる。
③普遍性	4.5	全国各地で実施できる実施モデルである。
④将来性	5.0	民間団体であるピンクリボンかながわとの連携強化により今後も普及啓発事業を継続できる。
⑤効果度	4.5	参加者のアンケート結果から高い満足度とがん検診に対する前向きな意識変容がみられた。
⑥信頼度	4.0	検診受診の行動変容までは確認ができない。今後検診予約を併せて行うなどの工夫が求められる。



様式4-1の資料

事業名	関連目標		評価の視点								
			ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価			アウトカム評価	
			評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目
健康づくりに関する情報の普及啓発	(1) 女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるような支援する。 (2) 女性自身が必要なときに的確で良質な情報を得てその活用ができるよう支援する。	若い女性を対象に設定できた	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	若い女性が集まるY150最終休日を計画した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	参加者数	1,500人	1,103人	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満	参加者の満足度	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満
				乳がん検診に関する情報の普及啓発のためのリーフレットを作成した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	リーフレットの作成数・配布数	1,500部	1,103部	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満	健康づくりへの意識の変化	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満
		対象集団に対する参加者募集方法が設定できた	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	市町村、保健福祉事務所、予防医学協会や協会けんぽ、健康保険組合などが自ら周知を行った	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	事前周知のチラシの配布	2,835部	3,000部	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満	がん検診の意識変容	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満
		マンモグラフィ検診者による普及啓発体制を設定	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	マンモグラフィ車の見学体験ができるよう準備した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	マンモグラフィ車見学数	1,500人	1,103人	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満	健康活動への意識	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満
				放射線技師による検診の説明	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	放射線技師による検診の説明	1,500人	1,103人	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				乳がん予防の情報の普及啓発のためのリーフレット用意した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	乳がん予防の情報の普及啓発のためのリーフレット配布	1,500部	1,103部	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				乳房自己触診法のモデル準備体験できる場を準備した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	準備企画会議回数	10回	17回	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
		企業や他組織との連携体制	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	ピンクリボンかながわとの協働による乳がん自己触診法の参加の募集・呼びかけを行った	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	県のたよりやホームページに掲載した	3回	3回	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				計画性・課内共有のためのスケジュール作成	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	スケジュール表作成	-	-			
				企業のCSRによる事業普及効果	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	ボランティアの意識の変化	-	-			

事業名	関連目標		評価の視点								
			ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価			アウトカム評価	
			評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目
健康づくりに関する情報の普及啓発	(1) 女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるような支援する。 (2) 女性自身が必要なときに的確で良質な情報を得てその活用ができるよう支援する。			事業実績のあるピンクリボンとの共催による事業効果を得る	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	ピンクリボンとの共催により事業効果が得られた	-	-			
				Y150音楽イベントとの協力	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	若い年齢層への集客ができた	50%	62%	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				イベントの運営スタッフの確保を行った	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	イベント運営ボランティアスタッフを確保した	20人	80人	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				協賛企業によるイベントの周知を行った	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	当日イベント周知用媒体(リーフレット・ポケットティッシュ)を配布した。	部	4,500部	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
		集客性を高めるイベント体制を整えた	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	企業社長・副知事等トップの参加を実施	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	新聞掲載によるPR効果	1社	3社	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				県庁ライトアップを計画した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	2日間ライトアップ実施	-	-			
		評価体制を整えた	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	イベント参加者の意見の聴取、アンケート調査を行った	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	イベント参加者の意見の聴取、アンケート調査回収数	1000件	865件	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
				事業実施者側の意見、参加者の意見を検討し、評価した	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	事業実施者側の意見、セミナー参加者の意見の検討評価回数、参加人数。	1回	1回 3人	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満		
		評価結果をもとに、実施体制・内容の見直しを行った	③.できた ②.ややできた ①.あまりできなかった	事業評価	1回	1回	③.80%以上 ②.50%以上 ①.50%未満				

(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性の健康応援デー ～ピンクリボンいせはら～
分野	■啓発活動 □健康教育 ■健康相談
事業費（千円）	1, 5 1 4（千円）

事業目的

生涯を通じた健康づくりを実践するために、疾患によっては性差を考慮した特性を知る必要がある。そこで、中高年の女性に多い健康上の悩みや問題に対処するための知識の提供や相談、女性のがんの中でも部位別罹患率第1位であると共に、死亡率が全国ワースト4位（神奈川県）である乳がんに焦点を当てた乳がん検診の受診率向上に向けた啓発イベントを実施する。

事業対象

健康づくりを目的とした体験型イベントに参加する中高年女性（一般市民）等

事業実施体制・展開

- 中高年期の女性に対する健康普及啓発
中高年女性が自らの健康づくりを実践できるよう健康相談会を実施すると共に、健康管理用「女性の健康手帳」を作成・配布。
①女性の健康相談会 ②女性の健康手帳の作成・配布 ③乳がん検診啓発用パネル作成・展示
- 女性のがん検診受診促進キャンペーン
伊勢原市が実施する健康づくりイベントや予防医学協会のピンクリボン活動と連動して、女性のがん検診の受診率向上のためのピンクリボンキャンペーンの実施。
①ドキュメンタリーの上映（TBS「余命1ヶ月の花嫁」ドキュメント）
②トークショー「千恵さんを支えた太郎さんからのメッセージ」
講師：赤須太郎氏（主人公を支えたパートナーであり、乳がん検診の普及活動を展開している『パンダ会』代表者）
③横浜ベイスターズ専属チアチーム diana とホッシーナ(キャラクター)によるピンクリボンキャンペーン及びちびっ子ダンスコンテストの実施
- アンケート調査（女性のがん健康づくりに関する意識について）の実施

事業目標・評価項目 及び その結果

- 市事業の中で共同開催する企画会を通し関係機関の協力体制ができる：打合せ会の開催（市3回、関係機関9回）、実施及び周知活動への協力体制（会場でのがん検診を子宮がん・乳がんに変更、市広報誌でのPR、保育園・学校の保護者向け案内送付、社会福祉協議会だよりでのPR等）
- 女性の健康管理に必要な情報を提供する：健康相談件数（5人）、「女性の健康手帳」・リーフレットの配布数（331部）、パネルコーナー参加者数（425人）
- 話題性のあるドキュメンタリーとトークショーを活用した乳がん検診の普及啓発：参加者数 1,177人、アンケートでの感想（体験談は貴重・このようなイベントをもっと希望する・大変ありがたかったなど）
- 参加者へのアンケート調査：満足度 参加してよかった（238/247人 96%）、がん検診の必要性がわかった・検診を受けたい（253/273人 93%）
- がん検診の受診者の増加：受診申込の増加（長期的視点で評価する）

事業の工夫点

市が実施するがん検診の普及啓発は広報紙への掲載等印刷物中心である。今回この事業の実施にあたり市や関係機関と実施打ち合わせを行う中で、関係者に乳がんの理解を深めてもらうと同時に、印刷物以外の実際に行動する普及啓発の方法を身近で経験することができた。参加者には、話題性のある媒体を使うことでインパクトのあるメッセージを発信することができた。

事業の効果についての評価・考察

- ドキュメンタリーは関心度が高く、早くから入場者があつたため上映予定時間を繰り上げて実施した。女性だけではなく、フェスティバルにきた家族も含めてイベントへ参加していた。話題性の高い媒体の活用は効果的であった。
- トークショーは、がん闘病を支え続けた当事者が伝える検診の重要性が聴取者に充分伝わりよかつた。がん体験者や身近な支援者から直接体験等を聞く機会は貴重であり、効果的であった。
- 女性の健康相談会は、乳腺症や婦人科疾患関する相談など女性特有の相談内容であり、専門職に確認して安心する様子が伺えた。イベント会場での相談会では、深刻な相談は困難であり話を聴いてもらい確認できたことで納得した様子であった。
- 当キャンペーンにあわせて市が乳がん検診・子宮がん検診を設定したこと、予防医学協会が乳がん自己触診法の普及活動を行ったことなど、各機関の連動したピンクリボンキャンペーンが展開でき、効果的であった。

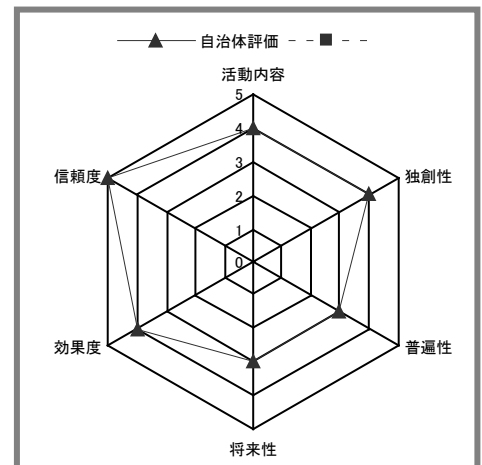
今後の課題

乳がんに限らずがん検診の直接的な普及イベントは、初めての経験で苦慮しました。がん検診の実施主体の市をどのように巻き込みながら、次への広がりも視野に入れたイベントを計画実施していくかが課題でした。

参加者へのアンケート調査からも継続的な普及啓発が必要であり、その普及啓発の方法も工夫が必要である。関係機関が連携した息の長い、奥行きのある普及活動が必要である。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	事業計画に当たり関係機関と十分に検討調整をして実施体制をとり、効果的な実施ができた。
②独創性	4	話題性のある内容を取り入れ、参加者にも満足を得たプログラムができた。
③普遍性	3	普及啓発の方法としてイベントは効果がある。実施方法には工夫の余地があると感じられた。
④将来性	3	がん検診の普及啓発は息の長い活動が必要であり、単発のイベントだけでは限界がある。
⑤効果度	4	今回の内容は参加者の反応もよく、がん検診の必要性が十分に伝わった。
⑥信頼度	5	行政等公的機関が実施し、従事者も職員・専門職雇用で対応した。



事業名	関連目標	評価の視点									
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価			アウトカム評価		
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準
中高年女性の健康に関する情報の普及啓発	(1)女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるよう支援する	中高年女性に起こりやすい健康問題に関する情報媒体を用意する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	普及啓発用のリーフレットを用意・配布した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者へのリーフレットの配布数	1,000部	331部	3.80%以上 2.50%以上 ①.50%未満	参加者の理解度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満
				中高年女性特有の健康問題に関する情報、自身の健康管理のための記録ができる手帳を作	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康手帳の配布数	1,000部	331部	3.80%以上 2.50%以上 ①.50%未満	参加者の相談後の満足度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満
	(2)女性自身が必要なときに的確で良質な情報を得てその活用ができるよう支援する			普及啓発用パネルを作成・展示した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	コーナー入場者数	1,000人	425人	3.80%以上 2.50%以上 ①.50%未満	参加者からのクレーム件数	③.なし 2.1~4件 1.5件以上
		自らの健康状態について相談できる場を準備する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	女性特有の健康問題に関する相談の場を用意した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	保健師等による女性の健康相談会を実施した	10人	5人	3.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
	(3)自分自身の健康状態を適切に把握し健康管理ができるよう支援する	対象に対するイベント周知を行う	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	伊勢原市の協力を得て保育園・小中学校の全戸配布でのイベント案内、社協便りへの掲載を1	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった						
				フェスティバル来場者には、イベント内容と場所を案内をするチラシを用意する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	イベント周知用リーフレットをフェスティバル会場で配布した。	1000部	700部	3.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
	女性の健康支援デーとして、市事業(いせはら健康家族フェスティバル会場)の中で実施する		③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	市と企画会等を実施する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった			3回			
		事業実施体制ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	イベント(女性の健康支援デー)を実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	コーナー入場者数	1,000人	425人	3.80%以上 2.50%以上 ①.50%未満		
		必要な人員の確保ができる	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康相談員を雇用する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	相談がスムーズに身	8人	8人			

事業名	関連目標	評価の視点									
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価			アウトカム評価		
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準
乳がん検診普及啓発キャンペーンの実施	(1)女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるよう支援する	乳がんの早期発見早期治療を認識できる場を設定する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	女性の健康支援デーとして、市事業(いせはら健康家族フェスティバル会場)と共催実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	各コーナー参加者数(延) ※実績は、事業対象である「女性」参加者に限定した	1,000人	1,127人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満	参加者の理解度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満
		幅広い年齢層の女性を対象に設定ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	関心を持って参加できるようにさまざまなコーナーを設定した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった					参加者の満足度	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満
		対象に対するイベント周知を行う	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	伊勢原市の協力を得て保育園・小中学校の全戸配布でのイベント案内、社協便りへの掲載をした	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった					参加者からのクレーム件数	③.なし 2.1~4件 1.5件以上
	(2)女性自身が必要なときに的確で良質な情報を得てその活用ができるよう支援する			フェスティバル来場者には、イベント内容と場所を案内するチラシを配布した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった						
		事業実施体制ができた	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	フェスティバル参加の子どものためのダンスコンテストを実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者数	50人	40人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
				横浜ベイスターズ専属チームとキャラクターによるピンクリボン活動を展開した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	各コーナー参加者数(延) ※実績は、事業対象である「女性」参加者に限定した	1,000人	1,127人	③.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
				「余命1ヶ月の花嫁」ドキュメンタリーの上映をした	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者数	500人	300人	3.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
				乳がん検診の啓発講演会を実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	参加者数	150人	120人	3.80%以上 2.50%以上 1.50%未満		
				関係者との打合せを実施した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	打合せ会実施回数等		12回			
				従事者を確保する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	従事者数		13人			
イベント参加後の意識変化を把握する	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	イベント参加者の意見の聴取、アンケート調査を行った	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	イベント参加者の意見の聴取、アンケート調査回収数	500件	331件	3.80%以上 2.50%以上 1.50%未満				
		参加者の意見、従事者の意見を検討し、評価した	③.できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	評価会の回数	1回	9人	3.良かった 2.やや良かった 1.あまり良くなかった				

(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性のがん予防にむけた喫煙防止・受動喫煙に関する啓発
分野	■啓発活動 ■健康教育 □健康相談
事業費(千円)	541(千円)

事業目的

青壮年期の女性が、育児に取り組みながらも自らの健康に目を向け、健やかな生活を送るために、喫煙に関する健康への影響を知り、併せてがん検診等の受診行動を促していくことを目的とする。

事業対象

管内の幼稚園・保育園在園児の母親、保健福祉事務所や協力の得られた市町の母子保健事業等への参加者

事業実施体制・展開

①普及啓発資料を作成・準備

- ・がん検診の受診促進のためのリーフレット「いつ受けましたか？」(健康増進課作成)
- ・受動喫煙防止普及啓発のためのリーフレット「たばこの煙にご注意!!」(健康増進課作成)
- ・禁煙及び受動喫煙防止普及啓発のためのリーフレット「おとなになってもすわないぞ!!」(当所作成)
- ・禁煙及び受動喫煙防止普及啓発のためのポスター(カレンダー)の作成

②事業評価及び実態把握のためのアンケート作成

③対象者・対象施設への普及啓発の実施

(ア)対象施設へ訪問し、職員へ事業目的や管内の情報を説明し、普及啓発資料の保護者への配布及び施設内での展示を依頼する。園長会として協力してもらえた施設には、園長会をとおして普及啓発の目的等を伝える。

リーフレット「いつ受けましたか?」、リーフレット「おとなになってもすわないぞ!!」は各世帯へ配布

- ・ポスター(カレンダー)、リーフレット「たばこの煙にご注意!!」は施設内の展示等を依頼

(イ)講話(実施可能な園や市町または保健福祉事務所における保健事業にて実施)

④アンケート調査結果の集計及び事業内容の評価

- ・事業評価及び今後の課題の検討にあたり、アンケート集計結果の効率的な統計処理や有効的な活用方法について助言者に指導及び助言を仰ぐ

⑤母子保健委員会及びその部会にて、母子保健関係者と事業実施のための企画・評価を行なう

事業目標・評価項目 及び その結果

①受動喫煙防止及び喫煙防止普及啓発の実施 管内全幼稚園・保育園とその全在園世帯へ普及啓発を実施

- ・リーフレットの配布 3,218枚 ・ポスターの掲示依頼 34/34施設 ・ステッカーの配布 18/18施設

②がん検診受診促進の普及啓発の実施 普及啓発用リーフレット全世帯(父子家庭を除く)の母親へ配布

※訪問により配布できた施設数(施設職員に事業背景や概要を直接説明) 28/34施設

※事前に事業説明を目的に訪問した施設数 4箇所 ※市町保健師と同行して訪問した施設数 12施設

③対象者への健康講話の実施 3グループ 延40人

④対象者の満足度;リーフレットに対し興味が湧かなかった人 「いつ受けましたか?」(がん検診受診促進用)について 16/483人、「おとなになってもすわないぞ!!」(禁煙・受動喫煙防止用)について 25/483人

⑤対象者の理解度;リーフレット閲覧後に意識の変化があった人 がん検診受診に対して 426/483人 受動喫煙防止等に対して 405/483人

事業の工夫点

これまで乳幼児健診等母子保健事業を通して母子における禁煙支援を行なってきた。今回保育園や幼稚園を対象としたことで、健診対象年齢以降の幼児を持つ母へも数多くかつ効率的に普及啓発を行なうことが出来た。子どもを通して保護者へ伝えることで、家族内で喫煙やがん検診に関する話題を共有するきっかけ作りを行なった。また今回の取り組みにより母子の健康増進に関する協力機関（幼稚園、保育園等）を増やす事が出来た。

事業の効果についての評価・考察

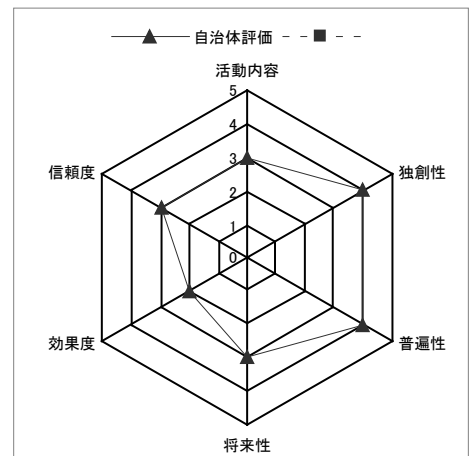
- ① アンケート調査により、4～5歳児の家族の喫煙状況の実態を把握することができた。これまで母子健康手帳交付時や乳幼児健診にて保護者の喫煙率の実態把握を行なっているため、4～5歳児の保護者の喫煙率と比較することが出来た。その結果子どもの年齢が高くなるに連れて母の喫煙率が高くなっていった。また、父の喫煙率は妊娠中から常に4割を超えていた。また、母親が禁煙したきっかけとして最も多かったのが妊娠・出産等子どもが出来たことに関連するものであった。妊娠・出産が、禁煙のきっかけとして重要なポイントとなる事を改めて実感した。
- ② アンケート結果から、3割前後の方が「ゆらゆら金太くんを子どもと一緒に作った」や「お子さんとたばこについての話をした」と答えており、親子、家族でたばこについて話しをするきっかけをつくる事が出来た。保育園・幼稚園からの手紙とともにリーフレットを届けた事や子どもが遊べる普及啓発グッズを配布することが、対象者に関心を持ってもらえたと考察される。
- ③ 対象施設を訪問することで、担当者へ直接、事業背景や内容を伝えることができ、さらに配布先での状況（園児の保護者の健康意識や喫煙状況について施設職員の感じていることや施設としての取り組み等）を聞くことが出来た。保育園や幼稚園はこれまで母子保健事業での関わりが少なかったが、今回の取り組みにより母子の健康増進に関するつながりを持つことができた。

今後の課題

がん検診を受診しない理由に、受け方が分からないと答えた人が少なくない事から、受診方法の情報提供を行なっていく事が対策の一つとして考えられる。また喫煙については母自身の健康と子どもの健康の両面の視点からの働きかけが必要となる。対象者への直接的な働きかけだけでなく、子どもを通じた働きかけにより、家族内で話題を共有するきっかけ作り等対象者自身の意識や関心が高まるような取り組みを今後も模索していきたい。

ホームページ	http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/index.html
照会先	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 がん・健康対策グループ 045-210-4780

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3	取り組みによる成果が即時的に期待出来るものではないが、身近で、地域に密着した活動である。
②独創性	4	子どもを通して大人に働きかけるという手法の展開は、家族ぐるみの支援へ発展できる。
③普遍性	4	関係機関の協力関係を築くことが出来れば、どの自治体でも利用可能と考える。
④将来性	3	実現可能かつ継続して行える取り組み内容の検討が必要となる。
⑤効果度	2	受診率等の評価は経年的な比較が必要であり、単年度での評価は難しい。
⑥信頼度	3	評価の際は、アンケートの対象が限定されている事やサンプル数が多くない事を考慮する必要がある。



事業名	関連目標	評価の視点									
		ストラクチャ評価		プロセス評価		アウトプット評価			アウトカム評価		
		評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	評価項目	目標	実績	達成度評価基準	評価項目	評価基準
女性のがん予防にむけた喫煙防止・受動喫煙に関する啓発	(1)女性が自らの健康に目を向けて健康づくりが実践できるよう支援する	育児期間中の女性を対象として設定ができた	3. できた ②. ややできた 1. あまりできなかった	がん検診受診促進を目的としたリーフレットを用意した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	がん検診受診促進を目的としたリーフレットの配布部数	3177部	3177部	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	参加者の理解度：がん予防や検診受診について	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満
		対象集団に対する普及啓発方法が設定できた	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	子どもと大人が一緒に読む事の出来る喫煙・受動喫煙防止の知識普及のためのリーフレット(「おとなになってもすわないぞ!!」)を作成した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	子どもと大人が一緒に読む事の出来る喫煙・受動喫煙防止の知識普及のためのリーフレット(「おとなになってもすわないぞ!!」)の配布数	3218部	3218部	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	参加者の理解度：受動喫煙防止等について	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満
	(2)必要な時に的確で良質な情報を得てその活用ができること	事業実施体を整えることができた	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	喫煙・受動喫煙防止の知識普及のためのチラシ(「たばこの煙にご注意!!」)を用意した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	喫煙・受動喫煙防止の知識普及のためのチラシ(「たばこの煙にご注意!!」)の配布数	70部	70部	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	参加者の満足度：がん検診のリーフレットに興味があつた人の割合	①. 10%以下 2. 20%未満 3. 20%以上
				喫煙・受動喫煙防止の知識普及のためのポスター(カレンダー)を作成した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	喫煙・受動喫煙防止の知識普及のためのポスター(カレンダー)を配布数	298部	298部	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	参加者の満足度：「おとなになってもすわないぞ」リーフレットについて興味があつた人の割合	①. 10%以下 2. 20%未満 3. 20%以上
	(3)育児期間中の女性に、がん予防に向けた喫煙防止・受動喫煙防止に関する啓発を行う			車内喫煙防止推進のためのステッカーを用意した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	車内喫煙防止推進のためのステッカーの配布数	510枚	510枚	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満	協力施設からの意見件数	3. なし ②. 1~5件 1. 5件以上
				協力施設を訪問し、普及啓発依頼を行った	3. できた ②. ややできた 1. あまりできなかった	普及啓発協力施設数	52施設	52施設	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満		
				協力施設をおして対象者へちらしを配布した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	健康講話実施回数	3回	3回	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満		
				育児教室・協力施設にて健康講話を行った	3. できた 2. ややできた ①. あまりできなかった	健康講話参加人数	55人	40人	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満		
				対象者にアンケート調査を依頼した	③. できた 2. ややできた 1. あまりできなかった	アンケート調査配布数	879人	874人	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満		
				事業実施者側の意見、リーフレットを配布した人の意見を検討し、評価した	3. できた ②. ややできた 1. あまりできなかった	アンケート調査回収数	703件	483件	3. 80%以上 ②. 50%以上 1. 50%未満		
			評価結果をもとに、実施体制・内容の見直しを行った	3. できた 2. ややできた ①. あまりできなかった	事業実施者側の意見、リーフレットを配布した人の意見の検討評価回数、参加人数	11回 90人	11回 90人	③. 80%以上 2. 50%以上 1. 50%未満			
									実施体制等の見直し内容	3. 良かった ②. やや良かった 1. あまり良かった	